



The Federation of Japan Amateur Orchestras Corp.

発行所:(社)日本アマチュアオーケストラ連盟
発行責任者:森下 元康

〒441 8028 豊橋市立花町46 光陽ビル3F
電話(0532)33 6885 FAX(0532)33 6875
e-mail:info@jao.or.jp http://www.jao.or.jp/



vol.47・48
合併号

第29回全国アマチュアオーケストラフェスティバル名古屋大会
国際アマチュアオーケストラフェスティバル2001イン名古屋

暑い名古屋に熱い演奏……

とってもホットな、フェスティバル!!



Festival A Orchestra



Festival B Orchestra



JAO Aichi Orchestra



*Birmingham School
Symphony Orchestra*



Open Seminar



Youth Orchestra



Work Shop



WFAO



Management Conference

ご参加くださった全ての皆様に感謝 !!

第29回全国アマチュアオーケストラフェスティバル名古屋大会
国際アマチュアオーケストラフェスティバル2001イン名古屋

実行委員会委員長 足木 準治



2001年の夏は、私にとって生涯忘れられない夏となりました。

8月2日から5日までの4日間、愛知芸術文化センターに海外から150名、国内からは650名の皆さんがご参集くださいました。

8月4日(土)に演奏くださった名古屋青少年交響楽団の皆さん、パーミンガムスクールズ交響楽団の皆さん、フェスティバルユースオーケストラの皆さん、それぞれ素敵な演奏をありがとうございました。

8月5日(日)に登場されたJAO愛知オーケストラの皆さん、フェスティバルオーケストラAの皆さん、フェスティバルオーケストラBの皆さん、短い練習時間しかとれませんでした、心が熱くなる演奏をありがとうございました。

ユースオーケストラを指揮くださいました栗田博文先生、Aオケを指揮くださいました西本智実先生、ゲストコンマスの安永徹先生、Bオケを指揮くださいました外山雄三先生、ゲストコンマスの三浦章広先生、本当にありがと

うございました。先生方の一挙手一投足が、私達にとっては全て財産です。

木管五重奏の編成楽器による公開セミナーで講師をお努めくださいましたフルートのエイミー・ポーター先生はじめ、オーボエのウエイン・ラビエール先生、クラリネットのスティーブン・バータ先生、バスのオット・アイフアート先生、ホルンのジョナサン・ポエン先生、素晴らしいご指導ありがとうございました。

こうした皆さんをお迎えるために必要な資金を提供くださった国、県、市をはじめ、トヨタ自動車、NECほか地元企業の各社様、皆様のお陰でフェスティバルが開催できました。心から感謝申し上げます。

そして暑い名古屋の4日間を、きわめて円滑に進行くださった愛知県内JAO加盟オーケストラの皆さん、ありがとうございました。

汗みどろになって楽器を搬入くださった皆さん、混雑する受付をスムーズにこなしてくださった皆さん、パート別懇親会を盛り上げてくださった皆さん、その他本当に多くの皆さんが、それぞれのポジションでベストの働きをしてくださいました。

こんなにいい皆さんのお陰で、フェスティバルは開催できました。実行委員長として、本当に、心から感謝申し上げます、お礼のご挨拶とさせていただきます。

あの暑い夏の4日間……こんなこともありました!!

～写真で綴る名古屋大会～

8月2日(木)

まずはユースのメンバーが集合。懐かしい仲間と再会の感動もひとしお。準備も順調!裏方さんもがんばります。



ユースは一足早く集合し練習開始。大きな舞台に元気な音が広がります。



楽器の搬入出も数多く大変です。ティンパニだけでも6セットも!



受付ではプログラムの挟み込みも。これが結構大変な仕事なんですよ……



ユースの指揮者、栗田先生。参加者とのコミュニケーションもバッチリ。



8月3日(金)

楽器を持って全員集合！木管楽器のセミナーもあり充実した大会となりました。すぐに始まった練習も、指揮者の熱意ある指導で息ピッタリ。



指揮者・コンサートマスターが勢ぞろい(開会式にて)



ブロックごとの紹介です。今年もたくさん集まりました。



隣に座ればもう仲間。ボーイングの打ち合わせかな？



懇親会も盛大。誰がどこにいるのかわからないよ～！



殿下も気さくに記念撮影に応じて下さいました。



バーミンガムの指揮者、ピーター・ブライドル氏。元気な子供たちに負けてません。



リハーサル室でのセッティングも大変な作業。



セミナー講師による木管五重奏の演奏。素晴らしい演奏に言葉も出ません...



8月4日(土)

ユースたちの演奏会。年齢は子供でも大人顔負けの見事な演奏にびっくり。世界のアマオケも安泰。で、大人たちは練習後の「懇親会」、これがなくちゃあ、ね。



Bオケの舞台練習。聡明な音が響き渡ります。



キュウケイダヨ。ニホンハアツィネ。パタパタパタ.....



フェスティバルユースオケ。大曲にもかかわらず素晴らしい演奏を聴かせてくれました。アンコールに「木星」を演奏。



名古屋青少年交響楽団。統一感の取れた、青少年と思えない演奏です。



バーミンガムスクールズ交響楽団。ストラヴィンスキー「火の鳥」(他)を演奏。



トランペットの懇親会。気合充分、お酒も充分!?



ヴァイオリンの懇親会。安永先生との記念撮影で先生大忙し。



西本先生と安永先生からの指示が飛んできます。気を抜けません。



8月5日(日)

短い練習時間でもこの仕上がり。指揮者と参加者の想いが伝わってくる名演ばかり。そして来年の再会を誓って.....



JAO愛知のリハーサル。運営もしながらの本番は大変です.....



本番前の西本先生。張りつめた緊張感が漂っています。



本番前でもこの笑顔。ピース♪



JAO愛知。直前までの裏方仕事のため、私服での登場です。



フェスティバルAオケ。情景が表現された見事な演奏です。



フェスティバルBオケ。作曲家の想いが伝わってくる名演です。



今年も大活躍のホルンさん。余裕半分、緊張半分？



次回は新潟。おいしい魚とお酒が待ってます、とのこと。また来年も会いましょう。



外山 雄三 さん

フェスティバルはもう何回か皆さんとお付き合いしてきましたが、それぞれが非常に熟っぽく、音楽が好きだという気持が正直に表れていて記憶に残る演奏です。そして今回久しぶりにまた皆さんと演奏してみて、一段と大人になったという感じがします。年齢的には

もちろん大人なんでしょうけど、音楽的に成熟したな、という感じがしました。だから私も皆さんがアマチュアだからといって遠慮することもないし、また皆さんの反応もアマチュアだからという妥協がないところが素晴らしいです。それは皆さんが今自分たちができるところまでやろうという、そうしないと心から愛している音楽に申し訳ない、と

思っているんじゃないかと私は考えてます。自分にとっても素晴らしい体験です。

実は今回の曲は自分にとって10年以上演奏を避けてきた曲なんです。何故かという、プロコフィエフの交響曲第5番、第6番からのつながりからくるとこの曲はなんか違うな、しかし何が違うか自分でもよくわからなかったんです。でも今回この曲ということで改めて勉強してみたんです、なぜこんな叙情的なものがここにきたんだろうと。でも今回皆さんと一緒にやってみて、ああなるほど、作曲家は非常に素直な感性を表現したかったのかなあというのが少しわかった気がしました。演奏は非常に難しいところがたくさんありますよね。一人一人が細かく心配りをしなくてはならないところもあります。でも素直な感情が表に出ている曲なので音楽を見直すとてもいい曲ではないかと思っています。皆さんと演奏できてとても楽しかったです。



西本 智実 さん

今回のフェスティバルは色々な国から参加されて日本でも色々なところから集まってきたメンバーで、最初は少し心配もありましたが、徐々に心をついて曲の完成に向かって進む姿は刺激を受けて私自身とても楽しんでおります。

この作品は劇音楽なので、演奏はもちろん、音楽として曲の向こう側にあるドラマを浮かび上げられれば、と思っています。皆さんと練習してきたものを本番に音として出していきたいと思っています。

私も子供の頃から音楽に、母が音楽をやっていたということもありますが、親しんできました。演奏というものは、テクニクと表現というのが非常に密接なものだと思います。感情の起伏とかも万国共通だと思います。例えば今回

の曲のようなドラマや表題音楽のような何かを表しているものというのは、勉強していなくても既に生活の中や自分が体験や経験してきたことにあたりするものです。今回は細かく切ったりせず、もちろん必要なところはそうしましたが、表現方法が死んでしまうことを恐れました。いろんな所から集まってきて今回初めてこの曲を知ったという人も中にはいたりして、そういうことも含めて音にならなくともニュアンスが表現できれば、と思っています。私もニュアンスが出せればと思いながら振っています。そしてそれをお互い音楽として表現できればベストですね。

ロメオとジュリエットというのは、何も言わなくても皆さん知っているわけですからね。この曲は台本と密接に作曲されていますので「絵」が見えてきますよね。ですが感じ方は人それぞれですのでこれは指揮者の権限として(笑)また作曲家自身の考えともあわせています。また舞台をやっていく中で判断しています。聞いてくださったお客さんが音の向こう側にドラマを見てくれれば本望ですね。



栗田 博文 さん

ユースの指揮はTYOCの演奏会以来ですね。今日演奏された名古屋青少年はとてもレベルが高く、パーミングムの皆さんも国の伝統と氣質が表れていてとても素晴らしいかった。僕が指揮をさせて頂いたユースもとてもレベルが高く、2日間という短期間でホルストの

「惑星」をやるのはとても難しいことなんだけれど、その中で自分のもっている力を最大限に発揮して、技術的な事だけでなく、表現としてニュアンスを聴衆に伝えてくれた事を名古屋で出来たことは本当に感動的でした。彼らも何かを得て帰ってくれたんじゃないかと思っています。初めはみんなの緊張をどうすればほぐせるかなあ、と心配していましたが、時間の経過とともに、心配など吹っ飛び、全員で音楽に夢中になっていました。参加しているのは全員

「音楽家」ですから、音楽上ではプロとの境はなく、だから国境がない、とも言われるんだと思いますけど、自分自身、練習もコンサートもアマチュアだから「ここまで」などと思って指揮はしてませんから、音楽に対する純粋な心でストレートに表現してくれたと思っています。

今回、29回を迎えた歴史あるJAOの活動に敬意を表します。クラシックが衰退しているという話が出る昨今ですが、この大会を見ていると21世紀もクラシックは必ず発展していくかと思えました。社会人オケの皆さんの練習も聞かせて頂きましたがとても質が高く、指揮者の要求にもストレートに返されているというのはアマチュアの皆さんのレベルが高くなってきたという証拠ですし、大会のオーケストラを地元のオーケストラと同じくらい愛しているんだなあ、とも感じました。オーケストラは「家族」みたいなものですから、これからも全国、そして全世界の仲間達の交流が広がり深まっていく事と思います。

「JAO」そして「WFAO」の今後のさらなるご発展をお祈り申し上げます。

222222222 参加者インタビュー

①参加種目 ②楽器名



豊橋交響楽団

白井 香奈江

①スタッフ ②F1

フェスティバルは社会人オケには参加したことがないけれど、ジュニアとは違った楽しみがありそうでぜひ参加してみたいです。スタッフの仕事はちょっと大変でした.....



豊橋交響楽団

石田 明日香

①セミナー ②F1

アメリカ人講師はとても演奏がパワフルです。骨格の違いかとも思ったんですがブレスのコツを教えてもらって皆さん音量が倍増します。それに他の参加者の演奏を聞いていると得るものがたくさんあって勉強になりました。



豊橋ユースオーケストラ

立花 麻里絵

①ユース ②1stVn

外国の方とも演奏出来てすごく楽しかったです。栗田先生はとてもいい先生です。大人数を2日間までとめるのはとても大変だったと思いますが、先生が引っ張って行って私にも練習不足だったんですが頑張れました。



岐響ジュニアオーケストラ

大場 紀章

①ユース ②Va

海外参加者も多くまた1フルトでの演奏だったので緊張しました。いろんな人と知り合えてすごく楽しかったです。



名古屋市民管弦楽団

渡辺 千秋

①スタッフ

今回は誘導と雑用を担当しています。暑い中、ようこそ名古屋までお越し下さいました。フェスティバル、楽しんで行って下さい。会場が迷路みたいで大変だったかな？



目黒交響楽団

坂口 良紀

①セミナー ②Hr

不幸にも風邪を1週間前からひいていてちょっとしんどいです。セミナーでは自分が吹いているの人も吹いているのを聞いていても非常に大切なことをたくさん教わりました。



沖縄交響楽団

小川 勝也

①セミナー ②C1

はるばる沖縄からきてセミナーに参加させて頂きましたが、自分の練習不足で悔しい思いをしています。初めて外国の方に教えて頂いてすごく勉強になりました。個人的に教えてもらうにはお金がかかるころでしょうね。また来年もこういう機会があったら参加したいです。



一般参加

牧野 敬子

①セミナー ②Fg

先生の体だけではなく、気持ちも含めてとてもダイナミックな演奏に惹かれました。とても勉強になりました。



山梨交響楽団

関岡 真

①運営協 ②(Tb)

6、7回目の参加になります。運営は100人いれば100通りの考えがあってかなり難しいと思います。地元にいるだけではわからないこともここに来て大勢の刺激を受ければ、新しい展開が生まれるんじゃないかと思えます。



北海道交響楽団

加藤 訓子

①セミナー ②Hr

木管五重奏は初めてだったんですが、個人の悪い点やそれを克服するためのアドバイスを簡単に説明して下さい、とっても良かったです。



福島市民オーケストラ

斎藤 幹夫

①Aオケ ②C1

指揮者の先生が女性ですが、男性に負けないくらい厳しいです。とてもすごい方だと思います。



茅ヶ崎交響楽団

金子 雅弘

①Aオケ ②Hr

皆さん上手くて困ってます。ユースの方が上手いような気がするので頑張りたいと思ってます。



堺フィルハーモニー交響楽団

山岸 光一

①Bオケ ②F1

皆さんよく練習してて1回目から合わせられて良かったです。練習指揮の先生もまとめ上げてくれたので本番が楽しみです。



関西シティフィルハーモニー交響楽団

川井 裕史

①Aオケ ②Vn

初めての参加ですが、非常に盛会で感謝しています。大阪でも開催予定なので下見も兼ねてですが、できるかどうかちょっと心配です...



新潟交響楽団

松村 牧子

①Aオケ ②Vn

来年は新潟開催ですので是非皆さんきて下さい。実は私は名古屋生れでございます...



栃木県交響楽団

木村 章子

①Bオケ ②Vn

何回か参加させて頂いてますが、今回は皆さんの反応がすごくいいので楽しく弾かせて頂いています。本番も楽しみです。

2222222222 参加者インタビュー

①参加種目 ②楽器名



倉敷管弦楽団

中塚 えりか

①Bオケ ②Vn

誘われて初めて参加しましたが、こんなに楽しいとは思いませんでした。練習不足でしたが先生方的確な指導で楽しく演奏できました。また来たいです。



吹田市交響楽団

谷 和幸

①Bオケ ②Cb

今回は非常にベースは盛り上がりっております。常連から初参加までいろんな方がいて感銘を受けています。とりあえず、頑張ります。



市原市楽友協会

武市 佳奈

①Aオケ ②Cb

初めての参加です。6フルトでの演奏は大学オケ以来のことなのでやっぱり大勢だと楽しいなあと思いました。来年もぜひ参加したいと思います。



沖縄交響楽団

市根井 真紀

①Bオケ ②Vc

去年は沖縄まで来て下さってありがとうございました。天気が悪くて申し訳なかったなあ、と思ってます。チェロはまとまっていて楽しいです。少しでもいい演奏が出来たらいいなあと思ってます。



戸田交響楽団

藁谷 修一

①Bオケ ②Vc

10年ぶりですがとっても楽しいです。こういう機会を与えてくれた団長さんに感謝しています。



関西シティフィルハーモニー交響楽団

上柿 泰平

①Bオケ ②Per

ホールがとてもステキで気に入ってます。いいホールで演奏できて、スタッフの皆さんも良くしてくれてとても感謝してます。外山先生結構厳しいんです。飲んでいても頭の片隅に演奏のことが...



太田フィルハーモニー交響楽団

大川 智

①Aオケ ②Per

今回初めてでいろいろ勉強させてもらってます。いろんな人とも交流が持ててよかったです。



刈谷市民管弦楽団

前田 憲宏

①Aオケ ②Tp

3回目の参加で、来年もぜひ参加したいです。



流山フィルハーモニー交響楽団

小形 小の実

①Aオケ ②Tp

AオケとBオケが練習の時点で交流もてる時間、お互いのオケや指揮者の先生を見学できればもっと勉強になるかなあと思いました。



習志野フィルハーモニー管弦楽団

堀越 秀男

①Bオケ ②BTb

第9回からの参加です。外山先生、今年は丸くなっていますが(?)本番が楽しみです。



福島市民オーケストラ

神野 尚登

①Bオケ ②Tub

3回目の参加です。コントラバスの皆さんがたくさんいて嬉しいです。時間が取れば金管の皆さんでアンサンブルとかしたいですね。



関西シティフィルハーモニー交響楽団

川端 成彬

①Bオケ ②Va

初めての参加ですが、大変盛大で楽しく参加させて頂いています。



大阪市民管弦楽団

藤本 典子

①Aオケ ②Va

安永先生と一緒に弾けたことがとても感動しています。また全国のヴァイオラプレーヤーと弾けたことがとても楽しかったです。

Special Thanks!!

宴たけなわの所インタビューに快く応じて下さった皆様、本当にありがとうございました。どのパートも楽しそうな懇親会でした。来年またお会いできたら1杯ご馳走してください。

~腹の減った編集委員より~



WFAO 2001年名古屋会議

本年の国際アマチュアオーケストラフェスティバル2001
イン名古屋における世界アマチュアオーケストラ連盟会議
は、次の16カ国の代表によって開かれた。

委員長 日本 森下 元康

- | | |
|----------|---------------|
| ①オーストラリア | ピーター・モーア |
| ②カナダ | スーベトラナ・ウラホビッチ |
| ③チェコ | ミシェル・ボダク |
| ④オランダ | アンネッケ・ヴァン・ネス |
| ⑤韓国 | ドン・ヒョン・ミン |
| ⑥ノルウエー | オーレ・ブジョンセン |
| ⑦フィンランド | クルト・ロングバッカ |
| ⑧イギリス | ロビン・オスター |
| ⑨スコットランド | アン・マリー・マレー |
| ⑩スペイン | サウロ・シュボッツフェルト |
| ⑪イタリア | アンドレア・カバリーニ |
| ⑫シンガポール | オリブ・カン |
| ⑬南アフリカ | ドロシー・グースト |
| | コルワネ・マントウ |
| ⑭ベネズエラ | エリック・コロ |
| ⑮アメリカ | スティーブ・ホブソン |
| ⑯日本 | 横田 行雄 |
| | 猪本乙矢 |

会議は8月3日午前10時から愛知県芸術劇場アーツ
ベースAを会場として開催された。

会議は4回開催され、初日は各国の活動状況や問題点に
ついての報告質疑応答があった。

各国の代表は自国での活動に苦勞と努力を強いられている
が、今回新参加者の中で、次の代表の発言が注目を引いた。

【第1、2会議】

- ・南アフリカ共和国 ドロシー・グーストさん
何十万人の若者が興味を持っているが、なにしろ楽器
が買えない。また講師も不十分で、楽器を作る技術者
がいない。
- ・南アフリカ共和国 コルワネ・マントウ氏
(ヨハネスブルグのスラム街の青少年指導者)
西洋音楽を人種を超えて教育していきたい。政府は他
分野を重視している。一部の人は白人エリートのもの
と考えている。楽器や楽譜はイギリスや東京のピース
ポートからの寄付。鈴木メソッドを使って指導してい
る。ジュニアも楽譜が読めるようになってきた。
- ・イタリア アンドレア・カバリーニ氏
ヨーロッパの他の国に匹敵する組織
はない。現在の状況は悲観的で、楽器
はプライベートレッスンや音楽学校を
通じてのみ学べる。公立学校では音楽
の授業もオーケストラを作ることも不
可能。EUの支援でやっとサマーフェ
スティバルが開催されている。
- ・フィンランド クルト・ロングバッカ氏
草の根活動からトップの音楽活動に
至るまで、全国組織SMS(オーケスト
ラ、合唱、吹奏楽を含む音楽連盟)に
は200団体が所属。メンバー数は12,
000人にのぼる。

教育省や民間基金から補助を受け、5年に1回ヘルシ
ンキで開催されるフェスティバルには4,000人が参加
する。

【第3、4会議】

- ・会員の拡大について
現在WFAOへの加入は入会金も特別な資格も不要で
あるが、特段のメリットも示せないでいる。さらに各
国の組織が統一されていないため、たとえばオランダ
でいえばNAYO、EAYO、EAOOなどの上部団体があり、
登録が二重三重になっていて仕分けが難しい。今後
ホームページ、Eメールを駆使して拡大と同時に整
理をしていきたい。
 - ・運営資金について 森下委員長から
WFAOの財政面の現状を申し上げたい。JAOを通じ
てNECがスポンサーとなり、全面的な支援を受けてい
る。運営に予算の三分の一を使い、残りの三分の二を
会議で集まるための旅費・宿泊費に費やしてきた。互
いに知り合うことが大切ということで、大半の予算を
このように使ってきたが、これからは本来のWFAOの
目的のために予算を使う方向へ転換したい。
そこで私からの提案だが、今まで日本が発起人とい
うことで議長国を勤めてきたが、地理的に不利なため
(会員の大多数が欧州諸国であるため)、次の集会は別
の国で開きたい。アクセスが容易で旅費が余りかから
ないところを選びたい。各自が負担金を出してWFAO
を維持していかなければならない。集会にお金を使う
のを減らし、本来の目的であるプロジェクトに予算を
当てたい。それにはヨーロッパが一番有利な場所だ
と思う。
 - この提案に対し、オランダ、ベルギーが2002のWF
AO会議開催に名乗りをあげついでイタリア、カナダも
次の年からの開催に立候補した。しかしその後、突然
のテロ事件で、これが沈静化するまでは現在ようすを
見守ることになった。
 - ・WFAOのネーミングについて
以前よりアマチュアという言葉によってさまざまな機
関からの支援に支障が生じるという議論が繰り返され
たが、今回NPOという肩書きをつけてはと言う意見が
多く出た。
- このほか忌憚のない意見交換が続いたが、最終会議を無
事終了。5日にはコンサートを楽しみ、高円宮憲仁親王殿
下との懇親会にも全員が出席し無事帰国した。



第5回 BDLO 研修旅行

【5月31日】

成田第2ターミナルBブース8時集合：JTB古関さん迎え。

ルフトハンザ711 便定刻出発：フランクフルト到着前1時間ヨーロッパ内荒天のため激しくゆれつづけた。

フランクフルトBターミナル到着。ニュルンベルクまでの国内線に乗り換え。入国審査後A24よりボーイング737：フライト待ちのため1時間遅れ。寺部さんアシスタント堤さん出向かえ。ホテル(マリティムニュルンベルグ)着8時半。すぐに食事。トマトとカッターチーズのサラダ・豚肉のソテー ジャがいも付き。10時近くでようやく暗くなる。

【6月1日】

9時ニュルンベルク市内観光出発：カイザーブルク城の裏より入り、城内観光。徒歩にて中央広場へ。仕掛け時計のあるフラウエン教会を見学。レーブクーヘン(Lebkuchen)なる名物のお菓子を買ったり、聖ローレンツ教会の内部を見学。ペグニッツ川の上にある郷土料理のレストラン(Heilig Geist Spital)にて昼食：クレープ入りスープ・牛肉ステーキ玉ねぎフライポテト付き。ケーニヒ通りを散策・職人広場見学・ケーニヒ門より出てバスへ。ローテンブルクを通過してヴァンカスハイムへ向かう。宿泊場所となる「Musik Haus」に4時前に到着。BDLOのメンバーも三々五々到着。夕食後7時半よりはじめての練習開始。セッティングはどこのオケも同じで、指揮者の位置が決まらないためウロウロ。椅子に座布団を2枚・3枚重ねているのは、さすがに体格の良い人々の国のためか。また、ヴァイオリンの前の方は、ひとりづつ譜面代を使っているのは、どうしたわけか。(自分の譜面でやりたい。見やすい：やりやすいを優先するお国柄でしょうか)

【6月2・3日】

午前9時~10時半	お城の中でパート練習
11時~12時	全体練習 街のホール
3時~5時半	全体練習
7時~9時	全体練習

【6月4日】

午前9時~12時	全体練習 希望者は、お城の内部観光
----------	----------------------

午後4時 本番

(服装：自由、お客さん：関係者など30人程度)

3日間とも雨が降ったり止んだりの天気で、気温もかなり低い。

食事は、朝食と夕食はチーズ・ソーセージ・パン・サラダ・飲み物(コーヒー・紅茶)

6月4日日本番終了後、日本人メンバーにて街のレストラン(Deutsherren Stuben)にて打ち上げ。季節料理のアスパラガス(Spargel)などを楽しむ。(ガイドの堤さん合流)

【6月5日】

日本人メンバーは朝8時前にフランクフルト飛行場へ(プラハへ)

私は8時半ゴンダさんの車でケルンに向け出発。約250

キロ。ボン・ケルン飛行場近くのゴンダさんの自宅に12時半に到着。食事(マギーのインスタントマカロニにサラダ)。スーパーに寄ってケーキを買い、BDLOのメンバーでケルンにお住まいのイーゼンベルクさんのお宅にコーヒーを飲みに来る。ライン川に面した高級住宅街。目の前にライン川が流れ、反対側にも広い庭がある。綺麗なピアノが置いてあった。(イーゼンベルクさんは、法律の専門家で66歳、すでに退職されている)良い天気となり暑い。

ケルンの街へ。メッセ前で駐車。ライン川を渡る。ホーエンツォレルン橋。中央駅からの各種の電車が脇を走り、ケルンドームが間近に見える。ドームに到着。内部見学後に、ドームへ登る。ケルンの街が一望に見渡せる。その後カフェで、スプライトを飲みトイレ(カフェのトイレは、なんとエレベーターで薄暗い地下に下りた所にあった)。街をブラブラ。音楽専門店で、プロコフィエフのスコアを買った。(40M)ライン川船着き場近くの気持ちの良いカフェで夕食。またアスパラガスを食べた。(すべてゴンダさんが支払ってくださった)ゴンダさんの友人(Irmgard)の家へ。犬3匹・猫5匹・馬2匹がいる郊外の牧場のような場所。ゴンダさんが、家庭菜園を借りている。うらやまし環境です。帰ってシャワー後寝る。

【6月6日】

9時ごろ起きて、パン屋へ。どの街にもパン屋と花屋・キオスクが町角にあり、朝食のパンを買いにブラブラと歩いている近所の人がいる。テラスで朝食後、ケルンの街へ。ローマ・ゲルマン博物館へ。戦争を逃れて現代に残るモザイクや、街から発掘された古代のガラスや陶器が展示されている。多くの子供たちが、先生に引率されて、見学していた。その後、車でボンの街へ。ボンのラートハウス前のマルクト広場のカフェで昼食。ベートーベンの家を見学。ライン川に沿ってドライブ。7つの山(Siegengebirge)をみながら、ケーニヒスヴィンター向かいの山の上にあるカフェでコーヒーとケーキを食べる。ケーニヒスヴィンターへ、渡し舟形式のフェリーで渡り、街を見学。ケルンへ戻る。途中大型スーパーへ寄る。軽い夕食後、ゴンダさんの娘(Sonia)の家に。ソニアは、ジュセルドルフまで通っていて、銀行で心理学の仕事をしている。ロシアンブルーの猫が2匹いてとってもかわいい。

【6月7日】

朝軽く朝食後7時にライブツッチヒに向け出発。500キロ。ガソリンスタンドに寄る。セルフ方式。ガソリン価格は、日本と同じぐらい。州道とアウトバーンを使ってフランクフルト・アイゼナハ・イエナなどを通って行く。途中パーキングエリアで食事。(パンをひとつ手持ちにしてもらった。)ライブツッチヒは、ゴンダさんの生まれ故郷。現在いとこが住んでいる生家へ。石作りの大きな家で、庭に果物の木や、野菜畑、夏用の家、八チ小屋などが点在して、鳥の声がいろいろと聞こえる。まったくうらやましい。ゴンダさんは、20歳まで、ここで暮らしていたそうで、ライブツッチヒの街はおてのもの。ホテルまで送り届けてくださった。3時着。ゴンダさんとは、ここで別れたが、ほんとうに世話になりました。日本に来た時に恩返しをしなけれ

ばならない。

インターコンチネンタルライブチヒ・ホテルの最上階26階が我々の部屋。一望の下にライブチヒの街が見渡せる。5時過ぎにメンバーが到着。すぐにゲバントハウスにチケットを買いに行く。タクシー利用(チップ込み10M)ゲバントハウスチケット売り場で2階最前列の真ん中をゲット。(65M)街を見学しながら開演を待つ。8時開演。ダニエル・ハーディング(26歳)指揮のマーラー第10番交響曲。約1時間30分の大交響曲。途中で後の席の御婦人が発作を起こされて退席されるハプニングなどあり。ホールと一体となったすばらしい演奏で、管と弦のバランスもすばらしく、大変感激した。(マーラーの10番は、まだ解釈が定まらない難曲とのことで、翌日の地元紙に「マーラーが若々しくよみがえった」と絶賛された)ホテルに帰り、日本食レストランでちらしずしを食べた。久しぶりのご飯でさすがにおいしい。(八木裕子)



指揮者のベルンハルト・ラングさんを囲んで参加者の皆さん。
右から3人目が南彩子さん、左端が八木裕子さん。

「第5回BDLO研修旅行に参加して」

モーツァルトアンサンブルオーケストラ
Va 南 彩子

外国から帰っていつも思うことは、もう少しその国の言葉を勉強しておけばよかったなあ!ということです。自分がうんと若い時、「日本に来るなら少し日本語の勉強をしていっしょいよ!」と思ったことがちょっと恥ずかしいです。それはさておき、アマチュアとして、シンガポール、グアム、マニラ、イタリア、オーストリアと行きましたが、ドイツはまだ行く機会がなく、今回BDLO交流研修旅行に参加する事ができて、大変うれしく思いました。自分で自分に還暦のお祝としました。曲がショスタコヴィッチの6番だったので弾けるか心配でしたが、ドイツへの憧れのほうが強く、スコアとCDを買い求め聞きました。始めの内はスコアを追っていくのが精一杯でした。途中でいやになってきました。パート譜が届いたのも随分遅かったですし、ヴィオラだというのにト音記号はちょこちょこ出てくるし、拍子は一小節おきに変わるので、譜面にたくさんガイドをつけて行きました。落ちてもすぐ入れるように。5月31日成田を出発し、ニュルンベルグに一泊し、6月1日午前中市内観光をして夕方目的地ヴァイカスハイムの宿泊場所「音楽の家」に到着。古い案内書には載っていませんでしたが、新しいガイドブックには「ロマンチック街道小さな街」に載っていました。素敵なお城があって、ヴェルサイユ宮殿を模した庭園があります。このお城の中で分奏をしました。18時30分夕食をとり、19時30分から第一回の練習です。1日3回、1回が約2時間半です。私はトップサイドの方の斜め右後ろでしたので弾きやすかったです。お隣のヘルムートさんが回りに日本人がいないので、気を遣ってくださり、自分はあまり英語が出来なくてご免なさいとあやまって下さったけど、こちらこそドイツ語も英語も分からず申し訳なく思いました。楽譜も私のも使ってもいいと言って下さったので助かりました。6月4日(日)いよいよ本番です。指揮者のラング・ベルハルトさんは、一見怖そうな方ですが、アマチュア演奏家の気持ちをよく理解していらっしゃる素晴らしい方でした。ヴァイカスハイムは落ち着いた街です。去年はとても暑かったそうですが、今年は雨が多くちょっと肌寒い気候でしたので雨がやんだのを見計らっては練習場をいったり来たりしました。練習場の近くに鹿が出てきたりもしました。また来年も参加できたらと思っております。

「BDLOのオケは、気持ちいいのだ」

モーツァルトアンサンブルオーケストラ
2ndVn 八木 裕子

ドイツ・ロマンチック街道の本当に小さな街、ヴァンカスハイムは、古いお城と教会が街の中心に有り、川とぶどう畑、麦畑、森とに囲まれた、時代を超えた美しいところです。建物や自然を守るには、たいへんな努力があったことでしょう。

初めてのオケに参加する時は、誰でも多少緊張しますし、演奏よりも回りに気を遣ったりするものです。ところがBDLOのオケは、全くスムーズに私を演奏に、音楽に引き込んでくださいました。まるで旧知のオケのように。メンバーは、ドイツ各地やオランダ・ベルギーなどから集まった音楽愛好家の面々です。私の属したセカンドヴァイオリンは、すでに退職してヴァイオリンを楽しんでいる方々が半数以上でした。皆さんやさしい笑顔と意志の強さを持った方々です。(ヴァンカスハイムの街のようです。)練習は「時差ぼけのショスターコピッチ」ではじまり、管の「スリル」に満ちた演奏が続き、どうなるやら。しかし、パート練習では、プロの演奏家が、丁寧に指導してくださいました。(弓の使い方などたいへん勉強になりました)最後には、気持ちがひとつとなり、とても良い演奏で終わりました。演奏が終わりパートトップのプロの方が、興奮したように皆を振り返り、笑顔を見せてくださいました。いつも出来なかった個所が、本番だけ成功したせいでしょうか。初めから最後まで、たいへん気持ちよく楽しく演奏することができました。BDLOの皆様へ感謝の気持ちでいっぱいです。(ドイツ語は分からなくても結構OKでした)

キャンプの後、私はBDLOのゴンダさんのお住まい(ケルン)に2日間ホームステイさせていただきドイツの家庭を垣間見させていただきました。民族の歴史とライン川(自然)を愛し、重い歴史を背負って生きているドイツの人々に、ますます興味を持ち、尊敬の念を深くしました。

JAOの「BDLO研修旅行」は、たいへん良い企画です。多くの皆さんが参加され、演奏と人間の幅をチョコッと広げる(演奏と音楽とドイツ旅行を思いっきり楽しむ)機会にしてはいかがでしょうか。私も、もっと勉強して、またチャレンジしたいと思います。横田団長をはじめ、JAOの皆様ほんとうにありがとうございました。

TCC200回記念コンサート

ペーター・シュライヤーの指揮でミサ・ソレムニスを演奏。
ゲスト・コンマス森悠子さんから、アンサンブルの基礎を学びなおす

4月22日(日)に東京文化会館でTCC 20周年記念コンサートが開催されました。

TCCの記念コンサートを東京で行なうのは6回目ですが、今回は指揮者にペーター・シュライヤー氏をお迎えし、ベートーヴェンの晩年の傑作「ミサ・ソレムニス」を演奏しました。過去5回のテーマは隠れた宗教曲の名曲というのがテーマでしたが、ベートーヴェンの「ミサ・ソレムニス」を演奏したのは、指揮者ペーター・シュライヤー氏の強い希望でもありましたが、そろそろ“隠れていない名曲”を演奏したいというオーケストラの願いでもありました。

ここで、簡単にTCC記念演奏会のあゆみをご紹介します。90年2月にTCC 200回記念として、メンデルスゾーンのオラトリオ「エリヤ」(指揮：クルト・レーデル)を演奏したのが最初で、以降92年3月に300回記念としてフォーレ&デュルフレ：レクイエム(指揮：ミシェル・コルボ)、94年2月に400回記念としてフランク：オラトリオ「至福」(指揮：ヤン・コラツォラ)、96年3月に500回記念としてフランツ・シュミットのオラトリオ「七つの封印の書」(指揮：若杉 弘)、98年2月に700回記念としてメンデルスゾーン姉弟の作品(指揮：ミシェル・コルボ)を演奏してきました。

JAO東京オーケストラは以上の歴史が示すとおり、常設のオーケストラではありませんが、当初より明確なポリシーを打ち出してきました。

特に宗教曲では美しい音色、響きが基本になれば、他のどんな表現も色あせてしまいます。JAO東京オーケストラは、何よりもまずこの“美しさ”を求めてきました。400回記念の「至福」では、「誠実な響き、統一感」と毎日新聞の批評でとりあげられましたが、これこそJAO東京オーケストラの目指す方向を正しく評価していただいたと思います。

前回の700回記念では、「至福のひとときを味わう」(毎日新聞)、「清らかな音楽に至福の時間」(東京新聞)、「室内楽的な愛が満ちる」(日本経済新聞)など、これまで積み重ねた成果が実ったのか、最高の賛辞をいただき、音楽の友誌恒例のコンサート年間ベスト・テンの8位にも選ばれました。大変うれしいことでしたが、一方でこの演奏を超えることは、とても困難に思えました。そこで20周

年記念演奏会にあたって、もう一度アンサンブルの原点に戻ることにし、「世界的にオーケストラのトレーナーがいない」とおっしゃる森悠子さんに、ゲスト・コンマスターを兼ねて、アンサンブルの指導をお願いすることにしました。

森悠子さんは日本ではあまり知られていませんが、バイヤール室内管、フランス国立放送フィル(77~88年)などを経て、リヨン国立高等音楽院助教授(88~96年)に就任、リヨン国立オペラではケントナガノに請われてゲスト・コンサートマスターとしても活躍され、99年からルーズベルト大学シカゴ音楽院教授として活躍されています。ヨーロッパ留学以来、常に音楽現場の最前線にあって、ルネッサンス、バロック、古典から現代音楽、オペラにいたる、あらゆる時代の音楽と様式(スタイル)を精力的に学び取り、日本の武道とも通じる呼吸法、そして耳に重点を置いた独自のアンサンブル法を編み出されました。

いつも共演している晋友会合唱団は、演奏前に柔軟体操からはじまって、ウォーミング・アップを必ず行なっています。JAO東京オーケストラでも同様に独自のウォーミング・アップを行なってきましたが、今回はさらに森悠子さんの指導で、呼吸を基本にした脱力の仕方などを取りいれました。さらに森さんからはリハーサルの過程で、特に弦の奏法と呼吸法、耳の使い方など実に多くのことを指導していただきました。

オーケストラの個性を作る上で、リハーサル会場はとても重要ですが、恒例のトヨタ東京本社地下体育室に加え、府中のトヨタ体育館でも2度リハーサルを行いました。また、前日も東京文化会館でリハーサルを行なうことが出来たのは幸せでした。

さて、ペーター・シュライヤー氏は世界的な歌手として有名ですが、近年指揮に活動の重点を移されており、特にバッハ、ヘンデルなどがそのレパートリーの中心です。4月17日(火)に来日され、管、コーラス、弦の順番にリハーサルが進みました。歌いながらの指導はさすがでした。

演奏会当日はほぼ満席で、演奏も幸い好評で満足のいくものでしたが、しかし、毎回のリハーサルで森さんからつぎつぎに膨大な課題を与えられましたので、これらのことを解決する出発点となった演奏会と言えると思います。今回は北海道交響楽団、酒田フィルハーモニー管弦楽団、栃木県交響楽団、新潟交響楽団、徳島交響楽団、山陰フィル、長崎交響楽団など全国のJAO理事団体を中心に、コンサートマスター・クラスのメンバーを派遣していただきました。また、WFAO(世界アマチュア連盟)からドイツの奏者にも特別参加していただきました。

最後になりますが、このような大曲の演奏を継続できるのも、三枝音楽監督の熱いリーダーシップと、20年にわたり(社)日本アマチュアオーケストラ連盟を支援しつづけていただいた、トヨタ自動車ならびに全国のトヨタ販売会社グループ関係者の皆様のお陰とあらためて深く感謝申し上げます。

JAO東京オーケストラ
代表 西脇義訓



平成 12 年度決算案などを承認 第 13 回理事会・総会を開催

(社)日本アマチュアオーケストラ連盟の第 13 回理事会・総会は、さる 5 月 19 日、東京上野「精養軒」にて開催された。午後 2 時から始まった総会には、北海道から沖縄までの正会員 60 団体の代表者が参加し、77 団体が委任状を提出した。最初に神野信郎会長の挨拶があり、会長が議長となり議事に入った。1 号議案「平成 12 年度事業報告ならびに決算案」(= 別掲)、2 号議案「JAOミュージックライブラリー利用規則案」(= 次号に掲載予定) はいずれも原案通り可決された。報告事項では、さる 3 月に行われた「第 17 回トヨタ青少年オーケストラキャンプ」について土田浩理事(青少年オーケストラ委員長) から、「第 29 回全国アマオケフェスティバル名古屋大会」の状況について足木準治副理事長(実行委員長) から、来年の「第 30 回全国アマオケフェスティバル新潟大会」について新潟交響楽団の大塚哲夫さんから、10 月に開催される「第 2 回日本マスターズオーケストラキャンプ」について横田行雄副理事長から、それぞれ報告がなされた。総会終了後、場所を 3 階に移し懇親会も開かれた。

平成 12 年度 収支決算書

自 平成 12 年 4 月 1 日
至 平成 13 年 3 月 31 日
(単位 : 円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 収入の部			
1 基本財産運用収入	(400,000)	(576,133)	(176,133)
基本財産利息収入	400,000	576,133	176,133
2 入会金・会費収入	(11,200,000)	(11,200,000)	(0)
入会金収入	90,000	90,000	0
正会員会費収入	7,950,000	7,950,000	0
賛助会員会費収入	3,160,000	3,160,000	0
3 事業収入	(7,890,000)	(7,467,100)	(422,900)
全国大会収入	2,500,000	2,509,000	9,000
青少年キャンプ事業収入	3,500,000	3,065,000	435,000
機関誌発行事業収入	1,500,000	1,500,000	0
マスターズキャンプ事業収入	390,000	393,000	3,000
4 補助金収入	(40,407,000)	(40,159,000)	(248,000)
地方公共団体補助金収入	2,200,000	2,200,000	0
民間助成金収入	38,207,000	37,959,000	248,000
5 寄付金収入	(10,140,000)	(10,140,000)	(0)
寄付金収入	10,140,000	10,140,000	0
6 雑収入	(388,000)	(509,695)	(121,695)
受取利息	8,000	10,695	2,695
雑収入	380,000	499,000	119,000
当期収入合計 (A)	70,425,000	70,051,928	373,072
前期繰越収支差額	9,456,999	9,456,999	0
収入合計 (B)	79,881,999	79,508,927	373,072
II 支出の部			
1 事業費	(52,491,888)	(51,529,729)	(962,159)
臨時雇賃金	661,000	661,000	0
福利厚生費	3,265,000	3,030,978	234,022
会議費	3,190,000	3,559,843	369,843
旅費交通費	19,441,250	18,031,772	1,409,478
通信運搬費	2,085,000	2,128,195	43,195
消耗品費	2,192,000	2,052,815	139,185
印刷製本費	5,056,500	5,076,445	19,945
賃借料	5,869,600	5,842,614	26,986
損害保険料	120,000	188,040	68,040
諸謝金	8,500,328	8,583,148	82,820
広報費	372,000	633,050	261,050
雑費	1,739,210	1,741,829	2,619
2 管理費	(15,345,000)	(15,099,923)	(245,077)
役員報酬	4,800,000	4,800,000	0
給与手当	1,050,000	952,000	98,000
諸謝金・臨時雇賃金	500,000	510,000	10,000
福利厚生費	30,000	29,800	200
会議費	1,000,000	953,661	49,339
旅費交通費	2,250,000	2,037,126	212,874
通信運搬費	900,000	964,873	64,873
消耗品費	1,100,000	1,187,239	87,239
渉外費	40,000	23,793	16,207
印刷製本費	250,000	226,065	23,935
光熱水料費	220,000	203,251	16,749
賃貸料	2,780,000	2,777,752	2,248
租税公課	25,000	26,000	1,000
雑費	400,000	408,363	8,363
3 固定資産取得支出	(320,000)	(318,465)	(1,535)
什器備品購入支出	320,000	318,465	1,535
4 特定預金支出	(2,090,000)	(2,090,000)	(0)
特定預金積立支出	2,000,000	2,000,000	0
基本財産積立金	90,000	90,000	0
5 予備費	100,000		100,000
当期支出合計 (C)	70,346,888	69,038,117	1,308,771
当期収支差額 (A) - (C)	78,112	1,013,811	935,699
次期繰越収支差額 (B) - (C)	9,535,111	10,470,810	935,699



第 13 回通常理事会



第 13 回通常総会



英国における日本文化行事「JAPAN2001」参加事業

静フィル英国公演のご報告



今夏、静岡フィルハーモニー管弦楽団は、8月14日から20日までの7日間にわたって英国を訪問し、バーミンガム市とロンドンを訪問し、両都市にて親善公演を行って参りました。

この事業の趣旨は、1998年日本において全国的に開催された「英国祭98」が日英両国の関係を一層深めるのに貢献したことを受け、2001年に英国で一連の日本関連行事「JAPAN 2001」への県の主要参加事業としてアマチュアオーケストラによるウェストミッドランドフィルに参加の要請が来て、静フィルがこれを受け実現したものです。

バーミンガム市は、英国の中心に位置するウェストミッドランド地域の中心都市で、美しい自然に囲まれた街で、文豪シェイクスピアや作曲家エルガーの生地でもあり、ロンドンに次ぐ芸術文化の拠点とされています。

今回の親善使節団は静フィルのメンバーと家族、一般参加者に加え静岡県が募集しそれに応募してくれた通訳ボランティアの方々など、総勢110名に及ぶものでした。

私達は英国入りした後、先ずバーミンガム市を訪れました。翌日、市庁舎迎賓ホールにてバーミンガム市及びバーミンガム大学日本センター関係者が主催する歓迎レセプションが盛大に催されました。そこには過日、第29回アマチュアオーケストラフェスティバル名古屋大会に招待参加のBSSO（バーミンガム・スクールズ・シンフォニーオーケストラ）のメンバーが全員加わり、静岡でホームステイした時のホストファミリーの団員と再会を喜び合うなどの光景も見られ、真の国際交流を感じさせる有意義な会となりました。

8月16日のバーミンガム公演は市の中心地にあるバーミンガム・コンサーバトワール（エイドリアン・ポルトホ

ール）にて行われました。会場は関係者やBSSOのメンバーに加わり、一般のお客様で満員となりました。

黒岩英臣氏の指揮による演奏曲は、エルガーの「威風堂々」、続いてショパンのピアノ協奏曲第一番、そしてベートーヴェンの交響曲第6番「田園」でアンコールには外山雄三作曲の「管弦楽の為のラブソディー」を持っていきましたが、演奏は大好評でした。

今回、客演ピアニストには日本から留学生、野元ゆみさん（17才）を迎え、その他ハープやチューバなどBSSOのメンバー9名に参加して頂き、ラブソディーでは青い目のハッピーにハチマキ姿に会場が沸きました。

翌17日はロンドンに移り、演奏会場は市の中心に近いセント・ジョン・スミス・スクエアという元教会というホールでした。

ロンドン会場も、大使館やクレアロンドン及び静岡県人会の応援で、チケットは早くに売り切れ、当日券を求めに来られながら入れずにいた方も大勢おりました。

満員のお客様を前にいよいよ気分は盛り上がり、前日に劣らぬ熱演にロンドンの聴衆も大満足？をしてくれたようでありました。

来場者に対するテレビ局のインタビューにも、口々に「とてもアマチュアとは思えない」と評して頂き、一応の日本のアマチュアオーケストラの面目は保てたのではないかとホッとしております。

今回の静フィル英国公演は、多くの関係者の御支援の賜と感謝する次第です。特に折しも半月前にJAO名古屋大会で事前交流が持てたことや、森下理事長による働きかけが大きかったと思われ、心より御礼申し上げる次第です。



2001.8.16（木） バーミンガム・コンサーバトワール（エイドリアン・ポルトホール）にて

『ヨチヨチ歩き』でしたが……はやく近隣オケのレベルに近づきたい！

(でも……アット・ホームの雰囲気はどこにも負けません)

鎌ヶ谷市ってどこ？……というところ

千葉県の北西部、船橋市、市川市、松戸市などに隣接する人口10万2千のほぼ台地状の市です。都心まで約1時間で行けるところですが、まわりは自然がたくさんあります。でも、有名なのはなんといってもおいしさ抜群の「梨」の名産地です。4～5月には白色、5弁のかれんな花があちらこちらの梨畑で見られます。そんな環境の中で練習をしています。

鎌ヶ谷市民オーケストラ

今から13年前(平成元年)市内の音楽好き仲間が集まって弦楽合奏(15人程)からスタート。全くの初心者も何人かいて、当時人前で演奏するレベルではとてもなかった。「ヨチヨチ歩き」「手づくり」でしたが、その後、管、打楽器も加わって、春のファミリーコンサート、秋の定期演奏会を毎年行って、今では50人ほどの管弦楽団に成長しました。

でも、結成当時からアット・ホーム的の雰囲気は今でも受け継がれ、楽しい練習に終始しています。アット・ホーム的～これはどこにも負けません。

今、団員全員、はやく近隣のオーケストラのレベルまで近づきたいと熱心に練習しています。

【今後の演奏活動予定】

2002年3月上旬 市民ふれあい祭り参加

*鎌ヶ谷市民オケ・ホームページ

<http://homepage2.nifty.com/kco/>

日本全国アマオケ街道
私の町
私のオケ
シリーズ第七回

からす川音楽集団 (KOS管弦楽団)

KOS Philharmony Orchestra

1978年、『からす川音楽集団』高崎市内の高校吹奏楽部OB10名で結成しました。『からす川』は高崎市を流れる川の名称です。あえて都市名を付けなかったのは団員の半数以上が高崎市以外の在住者であることで、今でも群馬県全域から団員が集まっております。それと『音楽集団』。ジャンルや形式にとらわれずいろいろな音楽活動ができるよう当初から計画しておりました。現在、社会人吹奏楽団、ジュニア吹奏楽団、社会人合唱団、ジュニア合唱団、そして管弦楽団の5団体により構成され団員も250名を越えております。

管弦楽団結成はまさに劇的なものでした。'93年に吹奏楽団と合唱団でドイツ、チェコ、オーストリアを巡る10日間の欧州公演を行いました。その最終公演のウイーンで現在当団の指導をしているレスター氏と出会いました。私たちの活動趣旨に賛同したレスター氏は翌年来日し弦楽部門育成に着手、新聞などの募集で5歳から14歳の希望者40名からスタートしました。氏の育成方法は徹底したもので当初はご父兄や子供たちの理解を得るのが大変でしたが、やがて氏の情熱が浸透し子供たちは驚異的な成長を遂げました。98年、吹奏楽団から選抜した管打楽器を加え『KOS管弦楽団』が誕生しました。

昨年8月、レスター氏の功績を称えと

ともに感謝の意も込めてウイーン、楽友協会会館で公演を持ちました。ご両親をはじめ会場を埋め尽くしたウイーン市民の皆様は音楽をとおして心から『ありがとう』を伝えてまいりました。

本年度から(社)日本アマチュアオーケストラ連盟に加盟させていただきました。これを機に全国の先輩楽団のご指導を仰ぎながら精力的に活動してゆく所存です。よろしくお願い致します。



— 2001年度 名古屋にて —

フェスティバルユースオーケストラ

迫力満点の惑星



去る2001年8月3・4・5日に名古屋の愛知芸術文化センター コンサートホールにて「国際アマチュアオーケストラフェスティバル2001 イン名古屋」と題して、第29回全国アマチュアオーケストラフェスティバルが開催され、4日には青少年オーケストラのコンサートが開かれました。それには3つのオーケストラが参加し、名古屋青少年交響楽団は歌劇「魔弾の射手」序曲（ウェーバー）、歌劇「売られた花嫁」より3つのダンスから「道化師の踊り」（スメタナ）を松井郁雄氏の指揮で、パーミンガムスクールズ交響楽団は歌劇「リエッツィ」序曲（ワーグナー）、舞踏組曲「火の鳥」1919年版（ストラヴィンスキー）を

ピーター・ブライドル氏の指揮で、そしてフェスティバルユースオーケストラは組曲「惑星」全曲（ホルスト）を栗田博文氏の指揮でそれぞれ精一杯演奏しました。

また、今回のフェスティバルは、パーミンガムからオーケストラを招いたり、フェスティバルユースオーケストラの一員として海外参加者を受け入れるなど、国際的なものとなっていました。

青少年の間で嵐のように過ぎ去った暑すぎる名古屋の2日間を少しではありますが、参加者の方々に語っていただきました。どうぞ、お楽しみ下さい。

私は今回のフェスティバルで本当に色々なことを学びました。『惑星』のコンミスをやることが決まってから、自分にコンミスがしっかり勤められるのか……と不安でいっぱいでした。

気持ちだけが焦っていくら練習してもうまくいかない状態でフェスティバルに参加することになってしまいました。栗田先生の指揮のもとで総合練習は初日から集中して行われ、私は緊張しすぎてカチカチになってソロを弾きました。

2日目には全体的に疲れが見え、しっかりしなければいけない！と思いつつも出そびれたり……大失敗をしてしまったり……夜、懇親会で栗田先生にこの先コンミスをする時にはと基本的なことだけど、私ができていなかったことなど色々教えて頂き、私はソロがうまくいかないことなど自分のことばかり考えていて、コンミスとして欠けている点が沢山あったことを恥ずかしく思いました。しかし本番は次の日！とにかく練習したことを守って少しでも聴いている人に『惑星』を感じてもらえる演奏がしたいと思い、本番ではそれまで一番栗田先生の指揮に集中することができました。又、すごく分かりやすくユーモラスに教えてくださいましたので、楽しく演奏できました。失敗したことを上げるとキリがないけれど、そこから学んだことはこれからの私にとってプラスになることばかりだったと思います。もっともっと精進していきたいです。

(Vn. 立花麻里絵 豊橋ユースオーケストラ)

今回初めて参加させて頂いたのですが、こんなにも大きな編成で演奏したのは初めてだったので、練習の時から既に緊張してしまいました。曲も大曲でさらうのが大変でしたが、大好きな曲だったので一生懸命さらいました。けれど、初日の合奏の時、あまりの迫力に圧倒されてしまい、ついていくことができなかつたのです。この迫力の中に自分の音を溶け込ませる勇気が出ませんでした。とても大きなショックを受けました。

しかし何度か練習を重ねていくうちに、曲の中へ入り込もうという気持ちが大きくなり、本番では悔いも残りませんがとても気持ち良く演奏することができました。この経験は私の心の中で、いつまでも輝いていると思います！！

それから、沢山の人たちに出会えた事も良い経験になったと思います。また更に視野を広げることができました。

大曲を大編成で演奏する事の難しさやすばらしさなど、沢山のことを学びとることの出来た日々を送ることができました。皆様に感謝感謝です。ありがとうございました！！
(相良久美子 藤沢 Jr)



特殊楽器、コントラファゴット参上！



休憩中も練習、練習……



開会式前、客席にて。



今までにない大きな規模のフェスティバルにおいて、思
い出深い「惑星」を大好きな栗田先生の指揮で演奏できる
というだけで、胸が躍りました。参加中は様々なアクシデ
ントがあり、お風呂に入れなかったり、本番中に弦が緩ん
でしまったりと大変でしたが、それだけに(?)印象に残
るフェスティバルになったと思います。私の中で惑星と言
えば、このフェスティバルになってしまいました。

(Vla 大場紀章 岐響 Jr)

私は今回の名古屋大会にオーケストラとしては3年ぶり
に参加した。メンバーの中には昔の仲間もいてとても楽し
かった。しかし、やる曲が惑星だったので、最初に楽譜を
見たときには「この難しさはいったい何!?’という感じ
でした。

みんなと合わせる時になり、1拍ずれるとなかなか入れ
ないことにはビックリした。2日間で本当にちゃんとでき
るようになるのかという不安はあったが、本番を終えてみ
るとすごく良くなっていた。時間はとても少なかったけれ
ど、自分の集中力やみんなのやる気、そして先生の力によ
ってあれだけいいものができたのだと思う。あれだけの時
間であんなすごい曲をやってしまうとは人の集中力はすご
いもんだなあ実感させられた。

それと今までのキャンプやフェスティバルがとっても厳
しかったのに対して、今回はわりと気楽だった。ある意味
ビックリしたが、今回は前とまた違い、より良いものを得
られた気がした。

人と出会えるのはいいい事だし、いろんな勉強が出来る場
所でもあるのでまた参加したいと思います。

(2nd Vn 西垣由衣 豊橋ユースオーケストラ)



メモはきちんととりましょう。



フルートなど管楽器がお世話になった青木先生です。



合間の休憩。お久しぶり!!



総合練習。地下にて。

名古屋のフェスティバルでは、岐阜のキャンプと一緒に演奏した仲間との再会、また一緒に同じステージで演奏できたのがうれしかったです。海外参加者とも再会や新しい出会いがあり、たくさんの刺激を受けました。

一緒に演奏する仲間と出会った二日後には本番...参加するたびにすごいなあと思う。弾いた経験があっても、本番までの時間がないと思うと常に気が抜けなく、練習の時から緊張が続いていました。また今回は隣の席のTaijaさんや他の海外参加者の人とも話す機会が多く、なかなか上手に英語を話せなかったけれど一緒に過ごせて演奏でき楽しかったです。

来年三月の宮崎のキャンプでもたくさんの出会い、たくさんの刺激があるだろう。どんなキャンプになるのか楽しみでもあり、演奏会もあるので前回よりも緊張するキャンプだと思うが、音楽を楽しんで演奏することを忘れてないで過ごしたいと思う。また前回のキャンプでの経験や反省を生かし、より良い四日間が過ごせるようにしたい。だから、キャンプに行くまでの準備をしっかりしていかなければならない。四日間が不安や緊張ではなく、ヴァイオリンを弾く(音楽を演奏する)楽しさでいっぱいでありますように...

(1st Vn 金子愛希 藤沢 Jr)



演奏会終了。大盛況のうちに幕を閉じました。

来年は宮崎で会いましょう!!

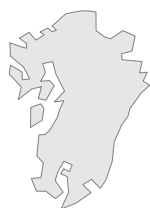
《第18回TYOC宮崎 2002年3月28～31日に開催》

また来年も3月28～31日に、トヨタ青少年オーケストラキャンプ(TYOC)が宮崎で開催されます。次回は1クール(2年)の2年目、というわけでキャンプの最終日には演奏会も開かれ、曲目は前回に引き続き、「シェヘラザード」「三角帽子」「アルビノーニのアダージョ」です。前回のキャンプに参加した人もしていない人も、もう申し込み書を出した人も出していない人も、まだ参加することは可能だと思いますので、こぞってお申し込みを!!



第17回トヨタ青少年オーケストラキャンプ

TYOC 九州上陸!



南国宮崎にて……



第17回TYOC宮崎を終えて

JAO青少年オーケストラ委員会委員長 土田 浩

今年も去る3月28日より4日間、第17回TYOCが宮崎で開催されました。今回、初の地方開催ということで、色々不安もありましたが、まずは、運営委員のみなさんが、本当によく頑張ってくれました。そして、宮崎ジュニアオーケストラの事務局をはじめ、父母の会等、多くの方々の協力でスムーズな運営ができたと思います。また、トヨタ自動車からの交通費の助成もあり、例年通りの約150名の参加者があったことは、大きな励みにもなり、将来への新しい道を開きました。

さて、演奏は、森下音楽監督をはじめ、指揮者の岩村氏、講師の先生方の、連日の熱心な指導のもと、順調な仕上が

りになりました。中には、もう今年演奏会でも良いのでは、と言って下さった方もいました。(ちょっとほめすぎの気もしますが?)みなさんが、オーケストラの演奏を通して、音楽の素晴らしい力に引きつけられ心を一にし、より高い演奏技術を目指して、毎日研さんを積んでいった成果の現れだといえます。

そして、この音楽の魅力にとりつかれた若い君たちが、限りない可能性を發揮して、さらに芸術性の高い音楽を作り上げていくことを期待します。

今から、来年の演奏会が楽しみです。

1日目・3月28日(水)

今回のキャンプが私にとって初めての参加となる。劇場に着いた時はとても緊張していたが、一度演奏すると何だかホッとした。

私はあまりおしゃべりする人間ではないのだが、今日の様子だとうまくやっ
ていけそう。部屋の仲間とうまくやっている。

今日は「三角帽子」を通して演奏したが、思ったとおりテンポの速さに目がまわってしまった。細かい指使いはもちろん、特にトリルにとりくまなければいけないようだ。あまり速く指を動かせなかったり、と問題は山づみだ。

だが息が切れるわけでもなく、吹けないにしろタイミングはつかめている。後の努力次第ではいけるかもしれない。



三角帽子の初合わせ

多分！今日のパート練習で1つ残念だったのは、「シェヘラザード」組の指導のため、「三角帽子」組は練習できなかった事だ。(もちろんそれだけ大丈夫ってわけではない。)時間の配分が後々難しくなりそうで少し不安が残る。

とにかく、遠い地での活動参加、第1日目。何事もなくいいスタートがきれた

のかもしれない。有意義なキャンプになるといい。(それにやっぱり大きなオーケストラで合奏するのは楽しいや。)明日は本格的なパート指導が受けられるといい。体が早く気温の変化に慣れるといいのだが.....

(Fl. 中橋花織 青森 Jr)

今日は朝すっきりおきれたけど、来るとちゆうは眠くて.....飛行機に乗ってきたのでけっこうつかれた様で練習中は大丈夫だったけど、部屋に入ったら眠くて仕方ないです。半年ぶり、一年ぶりに会った友達がなつかしくてうれしかったです。

総合練習は思ったよりまともで安心しました。難しい曲なのでどこまでくずれるかな.....と思っていました。私自身CDを聞きながら楽譜が追えない所があったので不安でしたが、少しゆっくりめなので、おちることなく最後までなんとかたどりつくことができました。明日からはもう少し余裕をもってやりたい様にはふけるように合奏になって4日間のうち1日は終わってしまいましたが、残り3日間のできる所まで仕上げたいと思います。



前回、前々回はいっぱい²で、突然のTopで力量以上の物が要求されてキリ²しました。でも今回は少しキャンプの雰囲気にもなれたし、余裕も多少はあるかな.....と思うので、パートの人や部屋の人、その他の友達の人達といっぱい話せるといいな.....と思います。

明日の夕方には岩村先生もいらっしゃるのでとても楽しみです。“いつもあの先生に指揮していただいているんだヨ”って皆に自慢できる先生なので、早く皆に岩村先生の音楽を感じてもらいたいです。私自身、岩村先生が藤沢ジュニアではない私でどんな指揮をされるか楽しみです。

キャンプ期間、なるべく充実したものにできる様に一生懸命やります。

(Ob. 竹口 舞 藤沢 Jr)

2日目・3月29日(木)

2日目の今日は、さすがに疲れました。普段は運動をしている私なので、ずっと座っていることや食べてばかりということに慣れていないから、すぐつらかったです。動けない上にすごく神経を使うので精神の方が疲れました。でもやっぱりオーケストラだから経験できるこの疲れです。私が所属しているオーケストラでもなかなか味わえないものです。それはやはり人数の違いだと思います。同じp(ピアノ)でも、キャンプのように大人数になるとppにするくらいじゃないとやさしい音にならないというようなこともコンサートマスターに言われました。今日、三浦先生と森下先生が同じような注意をされて、私の心にとても強く残ったものがあります。それは、「1つ前が大事」ということです。三浦先生には「1つ前の音を大事に」と



1st Vn パート練習

言われました。森下先生には「1つ前の指揮で次の感じを予想しなさい」と言われました。それに、曲は一通りの演奏しかないわけではなくて、二通り、三通りあるということも教わりました。私はそういうことを教わり音楽に限らず何に対しても一つに限られることはないんだと思いました。

考え方を一つにしぼりこむのは難しいし、目の前の一つのことしか見えないっていうのはつまらないことだと思います。いろいろ想像をして、たくさんの発見をして、少しでも考え方が豊かな人間になりたいです。キャンプが終わるまでみんなにいろんなことを学びたいと思いますっ！



Cl パート練習

(Vn. I 野々内夏子 山陰フィル Jr)



V.C. パート練習

今日は午前中はパート練習、午後はセクションと総合練習だった。午前中の練習では、霧生先生からタンギングのポイントや、アンブシュアの基本を習った。普段自分が気づかないポイントを発見したり、また今持っている技術を別の視点から見る事ができた。

非常に有意義だった。

昼食後はセクション練習と総合練習だった。セクション練習では時間が不足して、2曲をかつまんで合奏するにとどまった。総合練習は、みんな環境に慣れてきたせい、初日より余裕が(ほんのちょっと)あった。昨日の最初の合奏に比べ、音のつながりがスムーズになったように感じた。弦楽合奏のときに演奏されたパイプオルガンの響き

は素晴らしいと思った。本物のオルガンの演奏を聴けたことにとっても感動した。

キャンプも2日目が終わった。たくさんのことをしたが、まだ何もしていないように思える。今日は何を得たかすぐに気付かなくても後日にはっきり形になって現れてくれればいいと思う。

(Fg. 小橋川晴美 中城 Jr)

3日目・3月30日(金)

練習漬けという実感を身にしみる程経験した様な一日でした。朝のパート練習の始まる前に、昨日の練習で、再度考え直されたボーイングや、先生からの注意点など、強弱のかけ出す場所の細かい指示をサブリーダーから通達され、実際に危ないところを重点にして



Ob パート練習

皆で練習をしていきました。三浦先生や中村先生の教えて下さる弾きやすい方法は、とても勉強になります。音を出す前の準備や、拍の感じ方ですいぶんと出だしの音にも気配りができるし、伝えたい表情を音にするために合理的な弾き方ができるので、より深く曲のイメージに近づけていける気がします。でもやはり、頭では理解できても技術として即自分のものにするには、今後の練習が絶対に必要なので、先生方から学んだ技術を自分なりに応用しながら、様々な曲を弾こうと思います。

パート練を終えた後の総練というのは、皆ものすごくレベルが高まっていて、真剣さも格別感じました。岩村先生の多彩な表現力や統率力、曲に対する想い入れなどを盛り込んだ指導には、非常に心を魅かれます。オーケストラキャンプを運営して下さる関係者や、運営委員の皆さんには、本当に心から感謝しています。このキャンプを支えてくれている方々に、私達ができることがあるとしたら、それは今後の努力と今この瞬間を精一杯最高のものに創造することだと思います。これだけの熱意を持った青年の集まりだからこそ素晴らしい思い出になるのですね。明日も頑張るぞ!!

(Vn.I 濱田佳寿江 MBCユース)

3日目の今日も、やはり疲れている様子がうかがえましたが、でも、集中している人は何人もいたように思いました。今日は総合練習が長時間あったけれど、それでも予定より早く終わらせて下さったので早く寝ることができるので、きっと明日は全員で良い演奏ができるのではないかなど、少し期待があります。総合練習では丁寧に悪い箇所をできるまで教えて下さったので、明日にはなおっていることだろうと思います。

指揮者の先生や他の先生方に教えていただいた部分を明日の総合練習できちんと弾けるといいです。そして、今回ここで学んだことを来年までにきちんとしておけたらいいなと思っています。

この3日間は本当にハードスケジュールだったので精神的に少しまいってしまいましたが、明日までなのでガンバリたいと思います。部屋での生活は楽しかったけど、時間が少なかったので分かり合うことができなかつたので少しものたりないような気はしますが、きっと来年は楽しいのだろう



総合練習 Part1

なと思っています。字が相当きたなくなりましたが、今日は早く寝て明日きちんと演奏できるといいです。来年は今回の演奏より、もっとすばらしい演奏ができるといいです。

(Hp. 柄本舞衣子 一般参加)

4日目・3月31日(土)

今日はひととおり全部の総合練習をやりました。フルートが14人もいて、1人1曲しか出られなかったけど、聞くのも勉強になったと思います。最初は交響曲“シェヘラザード”に出れなくてくやしかったけど、だんだん練習を重ねていくうちに三角帽子もどんどん好きになっていきました。みんなでやったパート練習が充実していて最後の総合練習も満足いくものにできたし、“三角帽子”をやったよかったと今感じられるからうれしいです。キャンプは仲間も先生もいい人ばかりでレベルが高く、自分自身も前よりレベルアップできたと思います。特に岩村先生の指揮は力強くて手にすいこまれそうでした。表情が本当に豊かで、イヤでも吹いている時感情がこもってしまいます。来年この指揮で本番を迎えられると思うと待ち遠しい! 仲良くなれるか不安だった他のオケの子ともすごく仲良くなれてよかったです。みんなオーケストラをやっているという共通点があるからそういう点で親近感を感じられたから

だと思います。幅広い年齢の人、日本全国の人と仲良くなれて、しかも上達して帰って来られたから本当に行ってよかったと思います。

(Fl 砂川絵里 豊橋ユースオーケストラ)

4日間を通してとても充実したキャンプだったのではないのでしょうか。みなさんの行動も日に日に迅速になって練習効率も上がっていっていました。

また来年も宿泊、練習会場とも変わらないので、初日から練習がはかどると思います。

よりよい演奏を目指して各自努力して次回のキャンプにのぞんで下さい。

徳永先生によるサロンコンサート

キャンプ3日目、宮崎県立芸術劇場内のイベントホールにて、徳永先生が参加者のために演奏を御披露してくださいました。

徳永先生のヴァイオリンを構えたときの堂々とした姿は参加者を圧倒するばかりでした。

途中、三浦先生も演奏に加わり、先生方二人のものすごい熱演を拝聴することができました。

そして演奏後には徳永先生に参加者から出た質問にお答え頂くことができ、いろいろためになるお話を聞くこともできました。

ヴァイオリン奏者である参加者はもちろんのこと、他のパートの楽器を演奏している参加者にとっても、よい時間だったと思います。

キャンプ中は毎日がパート、セクション、総合練習がまったとてもハードなスケジュールなので、講師の先生方の演奏を聞くことは参加者にとっては心をリラックスさせ、次の練習への励みになっています。

今回のこの企画はそんな参加者のニーズに合っており、大成功という形で幕を下ろしました。徳永先生、ありがとうございました。



参加者の質問に答えてくださる徳永先生



第17回TYOCを振り返って

第17回TYOC実行委員会 委員長 大場 紀章
岐響ジュニアオーケストラ



今回はキャンプ史上初の本州を離れての開催ということや、贅沢な練習会場と宿泊施設を使用するという事もあって、今までとはどこことなく違ったキャンプになったのではないかと印象をもちました。

初日の合わせで森下音楽監督にお褒めの言葉を頂くなど、滑り出しも好調で、パート練習も整った環境（練習室が多かった！）での密度の濃い練習が行われたようですし、毎晩宿泊施設で行われたパートリーダーミーティングも各パートリーダーによる真剣な話し合い（どうにかして全参加者に見て欲しい！）が行われました。ただ、宿泊施設にリビングルームがあったせいか、夜の交流に多少行き過ぎた感があったのが残念でした。一年に一度しか会えない仲間との話らいも大切ですが、翌日の練習に支障を出さないというのが責任ですよね。来年への課題の一つとしたいです。

来年は演奏会があります。今年のキャンプで果たせなかった事をリベンジ出来る事に感謝して、来年の本番を成功させましょう。成功は個々人の達成感に他なりません。そして、本番終了後に笑顔でシーガイアで遊ぶなんてのもいいかもしれませんね。それでは宮崎で皆さんに会えるのを楽しみにしています。

【編集後記】

- ・編集長という役に抜擢され頑張って作らせてもらいました。なにぶん初めてなもので戸惑うことが多くてすいませんでした。今回の宮崎でのキャンプは練習だけでしたが、来年のキャンプでは最終日に披露演奏会があります。それぞれが今年のキャンプで学んだことを生かしつつ、来年のキャンプに向けて精一杯準備していきましょう。また、今回のキャンプで出会った仲間を大切にしましょう。全国に友達がいるというのは、とても素晴らしいことです。それでは、みなさん来年も宮崎で会いましょう！（肇）
- ・みなさんお元気ですか？写真は僕が選びました。宮崎の思い出を味わって下さい。（河合）
- ・写真を選ばせてもらいました。来年また皆様とお会いできるのを楽しみにしています。（竹本）
- ・キャンプからの時間が経てば経つほどキャンプの非日常性を感じる今日この頃。（大場）
- ・とても素晴らしいキャンプでしたね。来年も宮崎でお会いしましょう。（大木）



JYJ 編集部

編集長 鈴木 肇

編集員 横山 愛 河合大貴 大場紀章
大木愛子 竹本千彰

【編集部余波】

機関紙の発行が遅れに遅れ、しかも合併号としての発行となりましたことを、先ず以て衷心よりお詫び申し上げます。申し訳ございません。従ってかなり以前に原稿をいただいたものも今回の掲載となってしまう、執筆いただいた方々に深くお詫び申し上げます。

先日R.タゴールの『有閑哲学』を久しぶりに読み直した。人間の手や足が掴むことや歩くことから解放されたときに踊りが生まれ、そのほか目、口、耳しかり、食べることや外敵から身を守ることからはなれたときに初めて文化が生まれる。学問、芸術、スポーツなどすべて余剰価値の財産である云々…。概ねこんな説であったかと記憶していたがさにあらず、生物学的な深い理解の上に立って、人間の進化が物質的に進みすぎて再び野蛮から動物へ退化することを憂い、霊性の純化高揚を力説してあった。

しかし論旨はやはり有閑の価値は無用なものの価値であることに帰結している。動物は自分の時間の主人ではなく、その時間は全部食べることと生殖と眠りに費やされている。ところが人間にとっては時は金であるよりも有閑は宝なのであって、余剰という大資本を持っているから、そこからあらゆる進化や文化が生まれるのだ云々...という。

アマチュアとしての音楽活動は有閑の昇華であるが、しかし有閑とは贅沢でも耽溺でもなく、無為怠惰であってはならないと戒めなければならない。

昨今各方面から華やかな活躍が報告されるが、世間の耳目を集めることのみで心奪われ閑居不善となることなく、地道に自己を追求しなければならぬと、詩人のことばを咀嚼しつつ冬の日の有閑に思いをいたす。看脚下。

事務局通信

2002年度のトヨタコミュニティコンサート(=TCC)申請書の受付が9月末日で締め切られました。申請数はA方式が12件、B方式が81件、C方式が25件でした。(株)博報堂の担当者を交え、トヨタ自動車(株)と鋭意協議中です。今回はトヨタ側からは経費2割削減の方針が伝えられ、ますます厳しい状況となっています。ちなみに本年の実績は、A方式6件、B方式60件、C方式29件でした。

メセナ予算が軒並み削られる中で、トヨタ自動車のTCC担当者は強力にこの事業を推進し、JAOとしてはいつも頭の下がる思いでした。2002年度も何とか例年並を確保してほしいと思っております。しかし限られた予算の中で、公平にそして多くの団体、地域で実施するために、どうしてもいくつかの団体に1回休んでいただくこととなります。そのため、連続開催団体や書類の不備、JAOの行事への参加状況が極端に悪い団体等、また各地域の販売会社の意向を考慮し、最終的に決定いたします。各地域の販売会社グループとの協議もありますが、出来れば年内に結果をご連絡するよう進めております。会員の皆様には、どうぞこれらの事情をご理解いただきますようお願いいたします。

疾風怒涛(?)の名古屋大会が終了しました。まずは実行委員の皆様、本当にお疲れ様でした。今回の大会は例年と違い、JAO事務局としても運営に半分はタッチするような立場で、その意味から、いろいろな齟齬もあり参加者にご迷惑をおかけしましたこととお詫びいたします。木管の公開セミナーなど、新しい試みもあり、実行委員は苦労の連続でしたが、大変有意義で、成果を残した大会であったと思います。詳しい内容は本紙特集記事をお読みいただき、さらに「音楽の友」10月号(140ページ)の記事も是非御覧下さい。

Drive Your Dreams. 人、社会、地球の新しい未来へ。 TOYOTA

トヨタは、全国で20年900回を数えるトヨタコミュニティコンサートなどアマチュア音楽活動をはじめ、美術、演劇など幅広い分野で地域に根ざした文化活動を応援しています。みんなが、もっとワクワク、ドキドキするために、トヨタは、いっしょに歩んでいきます。

もっと、たくさんの感動を応援したい。
これもトヨタの願いです。



もっと、たくさんの感動を応援したい。
これもトヨタの願いです。

●トヨタのメセナ(芸術文化活動)の情報はインターネットでより詳しくご覧いただけます。www.toyota.co.jp/mecenas/



応援します愛知万博